

都道府県	福島県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間 生活	該当領域	環境
教授の内容	猪苗代湖の水環境学習 白鳥観察会		
講師の職業等	団体職員(学芸員) (55歳)		
内容	<p>実施期間 平成15年 7月 5日～平成16年 2月28日 対象学年 第5学年、 第1・2・3学年(白鳥観察会のみ) 合計授業時間数 17時間</p>		
	<p>1 目的・経緯 本校は北に磐梯山がそびえ、南に猪苗代湖が広がる風光明媚な場所に位置している。その自然環境を学習に生かす目的で、平成13年度より第5学年を中心に「総合的な学習の時間」(〇〇タイム)の中で、猪苗代湖及びその周辺の河川(磐梯山エリア)の水環境に焦点を当て、環境保全・自然愛護の取り組みを実践することにした。そこで、地域の環境に詳しく、更に専門的な知識を有する指導者が必要となった。 講師は本校の卒業生で、永年「白鳥おじさん」として白鳥の保護に努め、猪苗代の自然に詳しく、以前より「白鳥観察会」やスキーの講師を依頼していた。水質調査の仕方や動植物の生態等の専門的な知識を有し、更に自然を守り、地域を愛する活動も実践され、本校の活動の支援には正に適した人物として指導を依頼することにした。</p> <p>2 具体的教授内容・活動実績 (1)猪苗代湖及び周辺河川の現状と水環境の講話 生活排水による水質汚濁の状況、観光客・行楽客によるゴミ問題、森林の伐採による河川の変化等、猪苗代湖周辺の現状についての講義を行い、導入部における課題設定の場面に活用した。 (2)水質検査と水生生物調査の実施 猪苗代湖と河川の水質(透明度、pH、COD等)検査や水生生物調査の仕方を教授し、年3回調査を実施して、その変化から、児童に現状理解と環境保全の意識を植え付けた。 (3)水質浄化植物(アサザ～猪苗代湖固有植物)の栽培・移植 アサザの持つ特性についての指導、栽培方法や猪苗代湖への移植(場所、時期等)を支援し、水質浄化活動の実践を行った。 (4)白鳥観察会の実施 白鳥観察会の指導者として、白鳥の生態や住む環境を指導し、児童に、自然のすばらしさを感じ取らせるとともに、水質との関係に気づき、人間と自然との共存の問題に目を向けさせた。</p> <p>3 教科担任・学級担任との分担方法 (1)担任 活動のねらい・内容・方法の提示、活動における個別支援・援助、まとめ段階の指導、児童の安全管理、用具の諸準備、関係機関との連絡・調整等を担当する。 (2)講師 活動方法の提示、内容・方法の説明、実技指導等、専門性を必要とする内容の指導を担当する。</p> <p>4 効果・課題 (1)薬品を使用した水質検査の方法、水生生物の統計による汚濁状況の変化、比較による分析方法等、児童の科学的な思考力が育ってきた。 (2)地域をよく知る講師による指導なので、図書や資料にないタイムリーな話題の提供もあり、自分たちの住む地域の自然環境に大きな興味・関心を持つようになり、自主的・主体的な取り組みが増えてきた。 (3)日頃目にしない白鳥の産卵場所やアサザが生育している場所の見学を通して、あらためて地域の良さについて意識し、自分たちの住む環境を大切にする心が育ってきた。 (4)事前に担任と講師で打ち合わせを行って活動しているが、時として授業のねらいと活動のずれが生じることがあり、事前打ち合わせの重要性を感じる。 (5)この学習によって身に付けた課題意識をもつ力や自分で解決していこうとする力を、教育活動全般にどう生かしていくかが課題としてあげられる。</p>		

都道府県名	愛知県	学校種	小 学 校
担当する教科等	総合的な学習の時間	該当領域	環境教育
教授内容	池作りプロジェクト		
講師の職業等	無 職		
内 容	<p>実施期間 平成15年6月11日 ～ 平成16年2月27日 対象学年 4・5・6年生（池プロジェクトの希望者） 合計授業時間数 年間18時間（原則隔週1時間）</p> <p>1 目的・経緯 本校では、平成13年度から、環境教育の一環として、手作りのビオトープ建設を行っている。平成14年度から、愛知県で特別非常勤講師配置事業が始まると同時に希望を出し、ビオトープ建設の講師を依頼した。氏は、朝早くから、一人で地域の環境美化活動を行っており、子供たちもよく知っている人物であった。長年、地域の美化活動に取り組んできた氏の話の聞いたり、一緒に作業を行ったりすることで、児童が自分たちのまわりの環境に目を向け、より良い環境作りをしようという意識を持つことを期待した。</p> <p>2 具体的教授内容・活動実績 平成15年度は、6月11日から平成16年2月27日までの間に、10回（原則隔週1回、年間18時間）活動を行った。 主な活動内容は次のとおりである。 ○ 氷池作り（冬に氷遊びをする場所） ○ 給水パイプの埋設作業 ○ 展望台の基礎作り</p> <p>3 教科担任・学級担任との分担方法 池作りプロジェクトは、5つに分かれた菘山タイムプロジェクトの一つである。担当は4年生以上の学級担任、校長、教務主任、校務主任、専科教員の9名で、一つのプロジェクトに1名ないし2名の教員がついて活動を行っている。 講師には、池作りプロジェクトで指導にあたっていただいた。</p> <p>4 効果・課題 14年度から継続して講師を依頼し、活動に参加していただいた。児童たちは、講師の率先垂範の姿勢に接し、勤労の意欲が向上した。また、自分たちのまわりの環境をよりよくしたいという意識が芽生え、次は、こんなものを作りたいという、目的意識を持った取り組みができるようになってきた。</p> <p>5 その他 講師は70歳と高齢であり、体調も良くないため、16年度は講師を辞退されたが、ビオトープの整備は今年度も続いており、年度末までに、展望台を完成させる予定である。</p>		

都道府県名	和歌山県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間	該当領域	伝統芸能
教授内容	歌舞伎芝居		
講師の職業等	自営業		
内容	実施期間 平成15年 6月 2日～平成15年 9月29日 対象学年 2～6年 合計授業時間数 5 (週コマ数) 毎週月曜日第6限		
	1. 目的・経緯 校區には、二百有余年の伝統を誇る県無形民俗文化財指定の「二川歌舞伎芝居」が代々受け継がれ残っていた。しかし、過疎化が進み後継者不足で、上演するのが困難な状況に陥っていたのを、是非子どもたちに受け継いでもらおうと、二川歌舞伎保存会、育友会、学校の三者で「子ども二川歌舞伎育成会」を結成し、平成元年度より教育活動に導入した。 児童一人ひとりに生きる力と豊かな心を育成するため、毎年行われている「子ども歌舞伎『寿式三番叟』発表会」に向けて、伝承活動を展開している。		
	2. 具体的教授内容・活動実績 「寿式三番叟」は、「姫の舞」「鶴の舞」「鈴の舞」の三部からなり、三味線・太鼓・鼓・横笛・拍子木・謡・語りにのって、三階松の舞台を背景に豪華絢爛に演じられる。その役割分担については、10月の発表会が終わると6年生が来年度の配役を決め、練習を開始する。 講師は、二川歌舞伎保存会で二十数年、歌舞伎芝居の指導にあたっておられ、芝居のメイクの専門家でもあるので、学校はたいへん頼りにしている。夏休みに入ってから夜間練習も設定し、講師以外に保存会の方々からも、熱心できめ細やかな指導を受け、地域・保護者・学校が一丸となった活動が展開されている。これまでに、地域の発表会以外に県内外のイベントに協力出演を幾度もしている。		
	3. 教科担任・学級担任との分担方法 各パートの担当者となった教師は、練習指導上のポイントを講師より学び、児童一人ひとりに応じた支援・補助活動を行う。講師は、主に「姫の舞」の指導に当たる。		
	4. 効果・課題 自ら演じることで、より深く文化のすばらしさを体得することができた。また、一つのことを追求する中でねばり強く問題を解決していく力や仲間と共に協力共同していくことの大切さを身に付けてきた。そして、多くの人との出会いや交流を通して、郷土に対する誇りと愛着心が強まったと言える。課題としては、児童数が減少するなかで子どもたちの負担が大きくなることや講師の派遣回数が少ないことなどが挙げられる。		
5. その他 今後は、一層地域の人々に伝統文化伝承の意義を発信していき、地域の文化活動センターとしての学校の果たす役割を十分に高めていきたい。			

都道府県名	熊本県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間	該当領域	伝統芸能
教授内容	虎舞		
講師の職業等	虎舞保存会		

	<p>実施期間 平成15年5月～平成16年3月</p> <p>対象学年 1年～6年</p> <p>合計授業時数 年間14時間</p>
内	<p>1. 目的・経緯</p> <p>自分たちの住む地域を知り、地域に誇りをもった児童の育成をめざして「総合的な学習の時間（地域学習）」の地域教材として、校区に古くから伝わる伝統芸能「虎舞」を地域学習の一環として取り入れたいという本校の願いと、「虎舞」を継承させていきたいという虎舞保存会の方々の願いが一つになり、演技指導を依頼することになった。</p>
容	<p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>「虎舞」は4つの演目からなり、1・2年生が「壁塗り」、3・4年生が「お膳舞」、5・6年生が「地舞」、「玉取り」、「お囃子」を担当しており、それぞれの演技指導を虎舞保存会にお願いしている。活動実績としては、地域行事への参加や、老人介護施設や他地域との交流会等で披露している。</p>
容	<p>3. 教科担任・学級担任との分担方法</p> <p>各演目の担当や各学年担任が全体的な学習を進め、虎舞保存会に細かな舞の演技指導をしてもらっている。また、虎舞披露の際、低学年女子児童の着物の着付けや道具の修理等もしていただいている。</p>
容	<p>4. 効果・課題</p> <p>職員では気付かない講師の方々のきめ細かな舞の演技指導により、年々児童の演技が上達すると共に、本校の「虎舞」を知る地域の方々も増え、保存会の方々や「虎舞」を見られた方々から賞賛の言葉を戴き、自信をもって舞やお囃子を披露する児童の姿が見られるようになっている。また、講師の方々が舞を大切にされ、温かく見守ってくださる心が児童に響き、感動する豊かな心が育ってきている。</p> <p>課題としては、今後、地域で伝承芸能として継承していく体制づくりや、活動のための諸経費をどのように確保していくかなどの問題がある。</p>
容	<p>5. その他</p> <p>本校の取組が地域や学校の誇りとなっていてきており、地域や保護者の方々からも熱心に応援していただいている。今後も、虎舞保存会の方々や保護者、地域の方々と協力・連携して、地域の伝承芸能を継承し地域を愛し誇りをもつ児童を育成していきたい。</p>

都道府県名	福井県	学校種	小学校		
担当する教科等	総合的な学習の時間	該当領域	異文化理解		
教授内容	英語活動				
講師の職業等	塾講師（出身：フィリピン）				
内	実施期間 平成15年 5月 1日 ～ 平成16年 3月19日 対象学年 5学年 合計授業時間数 年間 30時間				
	1, 目的・経緯 日本や地域文化に誇りをもち、異文化理解、国際社会の一員としてともに生きる資質や態度を育てるため、総合的な学習の時間の国際理解の領域で英会話を中心とした英語活動を実施する。				
容	2, 具体的教授内容・活動実績（5月～11月の実績）				
	月	日	曜	基本表現（テーマ）	児童の主な活動
	5	14	水	Nice to Meet You.	英語で挨拶・自己紹介をする
		21	水	One Two Three	数字を英語で言う
		28	水	I'm from Japan.	自分の国の紹介をする
	6	4	水	How old are you ?	年齢を聞いたり、言ったりす
		11	水	When's your birthday ?	誕生日を聞く
		18	水	Do you have ~ ?	家族が何人いるか聞く
	9	24	水	World languages	世界の国名を英語で言う
	10	1	水	Where's mother ?	どこで何をしている？
		8	水	I like soccer.	どんなスポーツが好き？
		15	水	What's this ? This is ~.	英語で尋ね答える
		22	水	What color is it ?	英語で色や形を尋ね答える
		29	水	Endangered Animals	動物の名前、生息地を言う
	11	12	水	My Town	身近な建物を英語で言う
	19	水	Where do you live ?	自分の町を英語で紹介する	
	26	水	where do you want to go ?	自分の行きたい国を言う	
3, 教科担任・学級担任との分担方法					
学級担任とのT・Tで学習を進めた。学級担任は学級の実態や児童一人ひとりの個性・特徴を把握しているので、学習に効果的なペアの組み方やグループ分け、会話への意欲づけや支援を行うことができた。					
4, 効果・課題					
昨年にも増して児童の英語への興味・関心が高まり、授業を心待ちにしていた。外国（フィリピン）からいらした先生に接し、直接正しい発音を聞くことや英語表現を使うゲームを通して、楽しみながら英語活動ができた。					
フィリピンの小学校との交流（手紙や作品の交換）でも、児童は積極的な態度で取り組んでいた。児童同士でお互いに会話をする活動に大変意欲的に取り組むので、その活動をさらに多く取り入れたい。					
5, その他					
児童が英語に慣れ親しみ興味・関心を高めるのに、担任とのT・Tは大きな効果があった。この実践をもとに、さらに系統立てた活動ができるよう年間計画の検討を行いたい。					

都道府県名	鳥取県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間、クラブ活動	該当領域	異文化理解
教授内容	英語を使つてのゲーム、歌、英語劇等		
講師の職業等	英語塾の講師		
内容	<p>実施期間 平成15年5月8日～平成16年3月12日</p> <p>対象学年 3、4、5、6年</p> <p>合計授業時間数 47時間 (週コマ数) 主に火、木、金から2時間程度</p>		
	<p>1. 目的・経緯</p> <p>ゲームを通して英語に親しむとともに、英語の言葉や歌、ゲームなどを通して外国の文化、伝統に触れ、異文化の理解を深めたり、自国の良さを再発見したりする。講師選定については、校区にある英語塾にお願いし、外国人英語講師に指導していただいている。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>○ゲームを通して英語に親しむ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・絵本の読み聞かせ ・英語かるた ・色、数、天気、動作～しましょう <単語カードの活用> <p>○異文化の理解を深めたり、自国の良さを再発見したりする活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の歴史、国の歌、その国のあそび等の紹介 <クイズ形式等を取り入れて> ・ハロウィンパーティー、クリスマス会の実施、外国のおやつ作り <p>○英語劇の練習をし、表現力を高める活動(クラブ活動:4年生以上で構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会での発表のための英語劇の練習 ・題「ブレーメンの音楽隊」 <p>3. 教科担任・学級担任との分担方法</p> <p>T・Tによる指導(特別非常勤講師がT1、学級担任・クラブ担当がT2)</p> <p>4. 効果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年児童とも簡単な挨拶が英語で自然にできるようになってきている。 ○教育活動の幅が広がり、学校生活に活気が出ている。 ○クラブ活動の英語劇では、学習発表会「いちょうっ子発表会」で発表の場を与えてもらい、英語クラブ(ハローワールドイングリッシュクラブ)の子ども達の励みとなった。 ○特別非常勤講師が学校外部からの指導者のため、英語劇についてはクラブ活動の時間以外に練習時間がなかなか取れなかった。 ○授業内容は特別非常勤講師がリーダーシップをとり、子どもたちの異文化への興味関心が高まるような工夫がなされた。子どもの実態や学校行事等との関連などを考慮に入れ、担任や担当者側からの希望も出しながら事前打ち合わせや相談をしていくと、一層の深まりが期待できる。 <p>5. その他</p>		

都道府県名	京都府	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間	担当領域	英語活動
教授内容	英語によるコミュニケーション能力		
講師の職業等	英会話教室講師		
内 容	実施期間 平成15年4月11日～平成16年3月16日 対象学年 3～6年 合計授業時間数 126時間 (週コマ数) 毎週金曜日各3時間		
	<p>1. 目的・経緯</p> <p>本校では、国際理解教育を重点の一つとして教育実践を積み重ね、フィンランド校児童・生徒、外国人留学生との交流、国際交流教室の設置等の取組を推進し、平成3年度に、「国際理解教育研究発表会」を開催した。</p> <p>平成13年度から平成15年度まで社会人講師派遣事業の指定を受け、英語に慣れ親しみ、英語に対する興味・関心を育てるとともに、他国の文化を理解するためのコミュニケーション能力育成をめざして、英国籍の講師を特別非常勤講師として採用し、英語活動を進めている。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活場面に生かせる会話表現を中心に学習を構成する。 ・ 児童が自然に英語に慣れ親しみ話せるよう、「歌」「チャンツ」「ゲーム」「ロールプレイング」「クイズ」「スキット」等の様々な体験的な活動を取り入れる。 ・ 社会人講師の発音を児童が繰り返すことにより、英語で会話する感覚を身につける ・ 内容 歌・食べ物・あいさつ・スポーツ・数字・体の部位・場所・動物・季節・月日 曜日・気持ちの表現・天候・行事・動作 <p>3. 教科担任・学級担任との分担方法</p> <p>指導計画策定・教具の準備については、英語活動担当・学級担任があたり、社会人講師（AET）から助言を得る。</p> <p>授業の場面では、社会人講師と英語で対話、「ゲーム」等体験活動のモデル、理解が不十分な児童への個別指導等を通して、社会人講師と児童とのコミュニケーションを補助する。</p> <p>4. 効果・課題</p> <p>社会人講師の発音を児童が繰り返すことにより、英語を話す感覚を身につけることができ、外国の人と話すことに対する抵抗感が少なくなった。</p> <p>他国の知識を、社会人講師から直接聴き、児童が質問することにより、他国の生活・文化への興味・関心が高まった。</p> <p>今後、指導内容の系統性について研究を深めるとともに、各時間の指導案をより充実したものにすることが課題である。</p> <p>5. その他</p> <p>平成16年度以降も、英語活動指導事例集を活用し、英語活動指導助手との授業も取り入れながら、本事業の成果を継続する。</p>		

都道府県名	三重県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間等	該当領域	農業体験学習
教授内容	農業体験学習の指導(田植え・稲刈り・収穫祭)		
講師の職業等	専業農家従事者		
内 容	実施期間 平成15年6月17日～平成15年11月27日 対象学年 第5学年と第2学年 合計授業時間数 18時間 (週コマ数) (事前指導2H+当日4H) × 3週		
	<p>1, 目的・経緯</p> <p>本校は農村部にあるが、駅前開発等による都市化の波が近年著しく、また農家に生まれながら農業体験のほとんどない児童が圧倒的多数を占めるようになってきている。</p> <p>しかし、町の主要産業は農業であり、米や野菜などが多く出荷されている。そのような状況の中で、児童に農業を体験させ地域の産業について考え、今後のあるべき姿を追求させたいと考えた。そこで、専業農家として稲作や野菜作りの、また農業経営や農業実習の経験が豊富で、町青年農業経営者会議の会員で農業振興に熱心であること、地域子ども会や体育的行事を通じて児童との交流もあり、地域住民の信望も厚いこと、などから講師を選定することにした。</p> <p>2, 具体的教授内容・活動実績</p> <p>◎第1週(平成15年6月17日(火)2時間、19日(木)4時間)</p> <p>(1)6/17(火)「田植え」事前指導(2,5年生へ)・・・稲の一生、嬉野町の稲の栽培等講話 (2)6/19(木)「田植え」体験指導(2,5年生へ)・・・手植え実演・実習、田植機実演指導</p> <p>◎第2週(平成15年10月6日(月)2時間、8日(水)4時間)</p> <p>(1)10/6(月)「稲刈り」事前指導(2,5年生へ)・・・嬉野町の稲作、稲刈り方法等の講話 (2)10/8(水)「稲刈り」体験指導(2,5年生へ)・・・稲刈り作業(手刈りと束作り)の実演・実習 コンバイン機械の実演指導</p> <p>◎第3週(平成15年11月25日(火)2時間、27日(木)4時間)</p> <p>(1)11/25(火)「収穫祭」事前指導(2,5年生へ)・・・餅米と粳米、米のかし方等の講話 (2)11/27(木)「収穫祭」体験指導(2,5年生へ)・・・餅つきの実演・実習指導、保存食等</p> <p>3, 教科担任・学級担任との分担方法</p> <p>担任は、社会科や総合的な学習の時間及び生活科の中で、日本の農業や民俗学的な学習について、課題解決学習など探求学習活動をマクロ的に担当指導し、それを裏付ける実学的な体験・実習活動を地域に基づいてミクロ的に特別非常勤講師が担当する等、担任と特別非常勤講師が連携を密にし工夫をして行っている。</p> <p>4, 効果・課題</p> <p>地域教材を指導する際、ゲストティーチャーとして参加を依頼することが多くなっているが、専門的な内容を系統性も踏まえて指導していただく場合には、特別非常勤講師として指導していただくと効果的である。講師の日程調整が課題である。</p> <p>5, その他</p> <p>今後も地域に根付いた農業体験活動を継続し、地域の産業に児童の目を向けると共に地域の方々との交流を深め、生きる力の育成に努めていきたい。</p>		

都道府県名	三重県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習の時間	該当領域	地域学習
教授内容	講話、観察、実習（かき養殖学習）		
講師の職業等	かき養殖場取締役		

内容	<p>実施期間 平成15年6月3日～平成16年2月28日 対象学年 6学年 合計授業時間数 15時間（月：2時間）</p> <p>1, 目的・経緯</p> <p>三重県志摩市磯部町の矢は、かき養殖が盛んで、全国的にも「的矢かき」で有名な地域である。しかし、児童は、かき養殖の方法やかきの生育について、詳しく知らないことが多い。そこで、講話や観察・実習を交えながら、子どもたちに自分の身近な地域の産業を詳しく学習させるということがここでのねらいとなっている。かきの成長の仕方や養殖方法はもちろんのことだが、その中で、かき養殖に携わっている人々の労働の工夫や苦勞、喜びを子どもたちが実感することが重要である。</p> <p>特別非常勤講師の方は、養殖場取締役でもある。かき養殖場で働くとともに、かき養殖の研究にも力を注がれている。その方から、かき養殖方法やかきの生育のことについて詳しく教えていただいたり、実際に子どもたちがかき養殖場に行って実習をさせていただいた。</p> <p>かき養殖学習は15年度で4年目だが、これまでも快く講師を引きうけてもらい、子どもたちにわかりやすく丁寧に教えていただいた。</p> <p>2, 具体的教授内容・活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月…かき・かき養殖の概要についての講話 ・ 7月…ひおうぎ貝の幼虫観察 ・ 9月…かき掃除と生死の分別 ・ 10月…かきの概要について、的矢かき発送の手伝い ・ 11月…ひおうぎ貝の掃除、かきの稚貝の観察、かきのから探し、かき用かごの掃除 ・ 12月…かきの出荷見学 ・ 1月…かき掃除、かきむき、かき料理作り ・ 2月…かき掃除、かきむき <p>3, 教科担任・学級担任との分担方法</p> <p>事前に打ち合わせをし、かきについての講話や実習などでは、講師の方が中心となって進めてもらい、学級担任はその補助にあたる。講話や実習で学んだことを学校に持ちかえり、理解した事や感想、全体の問題や課題をまとめる作業は担任が行うなど、学級担任との連携を図っている。</p> <p>4, 効果・課題</p> <p>子どもたちはかき養殖について教えてもらい実習をさせてもらう中で、かき養殖の苦勞や喜びが少しずつ理解できてきた。例えば、9月に養殖場の職員の方たちと一緒にかき掃除や生死の分別の作業をさせてもらった時、子どもたちは、「腰がいたくなる」、「筏の上で気持ちが悪くなる」などつぶやき、その大変さが理解できたようであった。その後の感想では、「あんなに大変な仕事を長時間できるなんてすごいと思う」という感想を書いた子がいた。収穫の時期には、苦勞や工夫から生まれたうれしさも理解できたであろうと考える。</p> <p>課題は、地場産業である「かき養殖業」を学習することを通して、自分たちの生活や学習といかに結びつけていくかという、問題意識や課題意識をもたせるということである。</p> <p>子ども達が様々な実習の中から得たものをもう一度話し合っ、そこからでた問題や課題を持ちながら次の実習に臨むということが必要になってきているが、それがまだ十分ではない面がある。</p> <p>5, その他</p> <p>前述したが、今後は、子どもたちが課題意識を持ったうえで、講師の方に教えていただくということが、さらに重要になってくる。そのためには、教えてもらったこと、実習で得たことを、整理しながら、子どもたち同士が交流できる場をもっと多くもちたいと考えている。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

都道府県名	佐賀県	学校種	小学校
担当する教科等	総合的な学習	担当領域	農業
教授内容	米作り		
講師の職業等	農業（74歳）		
内 容	<p>実施期間 平成15年6月19日 ～ 平成15年11月1日</p> <p>対象学年 5年</p> <p>合計授業時間数 4時間</p>		
	<p>1. 目的・経緯</p> <p>平成2年より毎年、米作りについて本校で指導をしてもらっている。</p> <p>専業農家として、長年米作りに従事し、経験を通して専門的な米作りに関する知識が豊富であり、実技指導をしてもらったり工夫・苦労等を児童にとってわかりやすく話したりしてもらおう。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えの仕方・実際の指導・稲刈りの仕方・実際の指導 <p>3. 教科担任・学級担任との分担方法</p> <p>担任と講師が活動に向けて綿密な打ち合わせをする。それに基づいて、講師が講話や実際の指導をどのように行うかを計画する。それから、担任が児童に事前指導を行う。その後、実際の活動場所に赴き、講師の講話の後、実際の活動に入る。</p> <p>4. 効果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家と共に体験的活動を行うことを通して、米作りの具体的な作業・工夫・苦労等を共感的に学ぶことができた。 ・環境に対する豊かな感性と見識を持つ児童の育成につながった。 ・年間を通して講師との交流ができるような計画をたてるように考えることも大切だと考える。 <p>5. その他</p> <p>体験を通して学ぶことは、机上で学ぶこと以上に、児童にとっては共感的に学ぶことができる。また、自分の生き方を考えることでも非常に意義のあることである。よって、児童に体験を通して学べるような機会を設定していくことが重要なことだと考える。</p>		